

## 社会 (小5)

### 1 通過率 (1) 全体

平均通過率 (%)			対前年度比
平成17年度	平成18年度	平成19年度	
73.5	81.3	77.7	-3.6

○ 昨年度より平均通過率は下がったが、70%を上回っており、概ね定着している。

### (2) 内容・領域

	平均通過率 (%)			対前年度比
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
農業	71.9	85.9	79.5	-6.4
水産業	62.8	72.0	76.2	+4.2
工業	79.6	82.8	81.8	-1.0
運輸・貿易	71.8	78.2	69.6	-8.6

○ 昨年度まで課題が指摘されていた「水産業」については、取組の成果が見られた。しかし、「農業」「工業」「運輸・貿易」は、いずれも昨年の通過率を下回っている。特に、「運輸・貿易」は平均通過率が70%を下回っている。「農業」については地図の読み取りを新たに出题した。方位の読み取りに課題がある。

### (3) 観点

	平均通過率 (%)			対前年度比
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
社会的な思考・判断	73.0	81.5	81.9	+0.4
資料活用の技能・表現	78.7	85.4	78.5	-6.9
知識・理解	69.2	77.2	74.4	-2.8

○ 「社会的な思考・判断」以外の通過率は、昨年度より低くなっている。平均通過率は70%を上回っており、概ね定着しているといえる。  
○ 「資料活用の技能・表現」では、統計資料の基本的な読み取り方について指導を徹底する必要がある。また、地図の読図についても、地図帳等を活用して繰り返し指導したり、読図のよさを実感させたりする取組が必要である。

## 2 通過率が低い問題

- ① 8 (1)④ 立地条件からICの特徴を問う問題 (46.4%)
- ② 8 (2) 日本で最も工業生産額の多い工業地帯名を問う問題 (60.3%)
- ③ 8 (3)① 我が国の輸出入のグラフから2番目に多い組み合わせを読み取る問題 (62.4%)

## 3 特に定着を図りたい問題

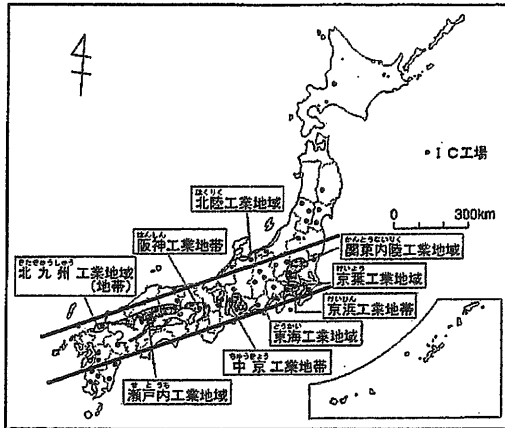
- ① 4 ② 地図資料をもとに黒潮と親潮がぶつかるのは何側かを問う問題  
<H17:73.3% → H18:67.3% → H19:70.7%>
- ② 8 (1)① 太平洋ベルトのおおよその範囲を地図から読み取る問題  
<H18:78.5% → H19:64.1%>

【 通過率が低い問題 ① 】

8 (1)④ 立地条件から I C の特徴を問う問題

通過率 46.4%

(資料1)「日本の工業のさかんな所」



最近、海からはなれた内陸にも、新しい工業地域や ( ④ ) IC (電子部品) をつくる工場などが広がってきているね。そこは、高速道路や航空機を利用して輸送するのに便利なんだね。

はな

- |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| ア 重くてねだんの安い | イ 軽くてねだんの高い | ウ 重くてねだんの高い |
| エ 原料        | オ 旅行者       | カ 太平洋ベルト    |
| ク 九州地方      | ケ 東北地方      | コ 中部地方      |
|             |             | キ 工業地帯      |

誤答傾向の分析

- 誤答は、工業地帯 (キ)、重くてねだんの安い (ア) の順で多かった。
- 問題文の「新しい工業地域や (④)」の部分のみ読み取り、「工業地域と工業地帯」という語句をセットとしてとらえ、「工業地帯 (キ)」を選択したものと予想される。
- 「重くてねだんの安い (ア)」については、IC 自体をイメージできなかったことが要因ではないかと想定できる。
- 「工業地帯 (キ)」「原料 (エ)」については、問題文のつながりにおいて選択肢に名詞が入ると意味が通じなくなるため、問題文の読解についてしっかり読み取ることや落ち着いて題意を捉える指導も必要である。



改善策

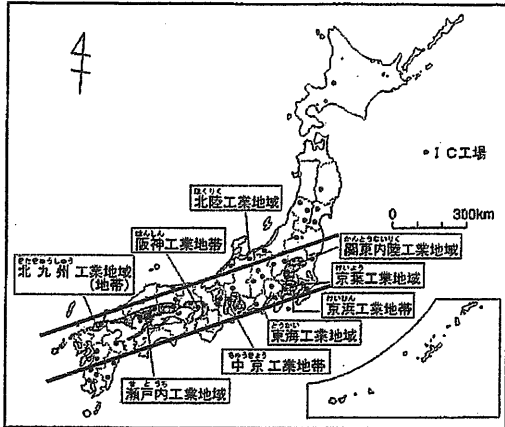
- 「IC」は小さくて軽い上、値段が高いので、航空機を利用して輸送できること、また「IC」の生産にはすんだ空気やきれいな水が必要であることなど、工場の立地条件についての概念を具体的な事例を通して理解させ、他の事例でも同じ条件で説明できることを理解させ、児童が納得する授業を展開することが考えられる。
- 同様に、原油や鉄鉱石等の原料を使う工業においては、原料が船で輸送されることから、海岸部に工業地帯や工業地域が形成されやすいこと等を、具体的な事例で学習し、そこで習得した社会的見方を他の事例地で考察し、一般化していく授業が望まれる。

【 通過率が低い問題 ② 】

8 (2) 日本で最も工業生産額の多い工業地帯名を問う問題

通過率 60.3%

(資料1)「日本の工業のさかんな所」



(2) 愛知県や三重県、岐阜県にまたがる工業地帯（工業地域）は、日本でもっとも工業生産額が多くなっています。その工業地帯（工業地域）はどこでしょうか。資料1を見て、次のア～エの中から一つ選び、その記号を  の中に書きましょう。

ア 京浜工業地帯    イ 阪神工業地帯    ウ 瀬戸内工業地帯    エ 中京工業地帯

誤答傾向の分析

- 誤答は、京浜工業地帯（ア）、阪神工業地帯（イ）の順が多かった。
- 問題に地図資料が示され、選択肢の工業地帯・工業地域も地図上に明記されている上、昨年度も中京工業地帯を問うほぼ同一の問題を出題（通過率69.1%）している。  
愛知県、三重県、岐阜県というヒントが生かされず、都道府県の位置関係の理解が不十分であることが要因と考えられる。
- 問題文中の「日本でもっとも工業生産額が多い」という記述から、首都東京のある「京浜工業地帯」を選択したのではないかという予想もできる。



改善策

- 主要な工業地帯や工業地域を理解させるとき、地図帳を活用して地理的空間認識を確実に形成させたり、工業地帯（工業地域）の特徴となる工業製品や工業生産額、立地条件、輸送条件、自然条件等と結び付けた多面的な説明を行い理解を深めたりする工夫が必要である。
- 地図帳の活用については、教科書に出てくる地名等を予習や復習の課題として調べさせたり、授業中に確認させたりして、日常的に調べる習慣を身につけさせることも大切である。
- 定着を図るために、白地図に転記させたり着色させたりなどの作業的な学習や定期的に反復するなどの指導も継続することが望まれる。

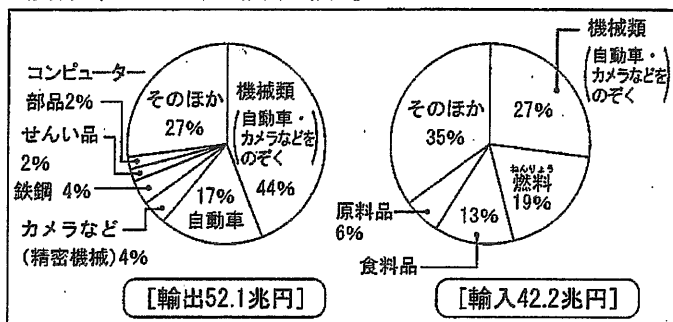
【 通過率が低い問題 ③ 】

<p>8 (3) ① 我が国の輸出入のグラフから2番目に多い組み合わせを読み取る問題</p>	<p>通過率 62.4%</p>
--	------------------

(3) ゆりこさんが話をしている日本の工業の輸出や輸入について、あとの問題に答えましょう。

① 次の資料2は、日本の輸出と輸入について表したものです。それぞれ2番目に多い組み合わせを次のア～エの中から一つ選び、その記号を  の中に書きましょう。

(資料2) 「日本の輸出と輸入」



[2002年 通商白書]

- |              |          |
|--------------|----------|
| ア 輸出 (機械類)   | 輸入 (機械類) |
| イ 輸出 (その他)   | 輸入 (機械類) |
| ウ 輸出 (自動車)   | 輸入 (燃料)  |
| エ 輸出 (カメラなど) | 輸入 (原料品) |

①

誤答傾向の分析

- 誤答は、「イ 輸出 (その他) 輸入 (機械類)」「ア 輸出 (機械類) 輸入 (機械類)」の順で多かった。
- 問題文の「それぞれ2番目に多い組み合わせ」に対して、「イ」を選択した児童は円グラフ中の「その他」を順番に組み込んだためであり、「ア」を選択した児童は「最も多い組み合わせ」を選んだためと推測できる。
- [9]の(1)でも円グラフの読み取りを出題した。誤答として「その他」を順番に組み込んだものが最も多かったことから指導の徹底が求められる。



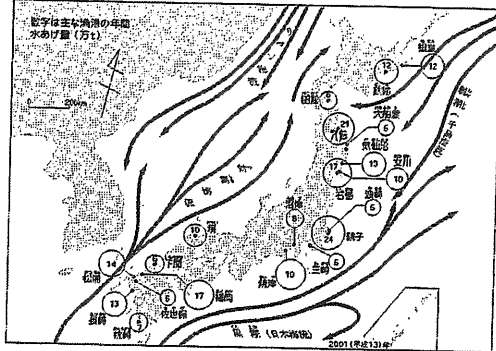
改善策

- 統計資料 (棒グラフ, 円グラフ, 柱状グラフ等) の読み取り方を指導する際に、「変化の大きいところ」「最も多いもの」「最も少ないもの」「変化の傾向」等はどこか、またその理由は何かなどを把握させてきている。「その他」の数量の扱いについても、他教科との関連も図りながら、社会科の資料を読み取る技能として繰り返し指導する必要がある。
- 「その他」は複数のものが合わさっているということを、具体例を通して理解させる指導も必要である。

【 特に定着を図りたい問題 ① 】

4 ② 地図資料をもとに黒潮と親潮がぶつかる場所は何側かを問う問題  
 <H17:73.3% → H18:67.3% → H19:70.7%>

(資料) 「日本のおもな漁港と水あげ量」



【鏡子市漁業協同組合資料より】

かつおやさばは、黒潮（日本海流）や対馬海流という（①）によって日本の近くにやってきます。また、さんまやさけは、親潮（千島海流）やリマン海流によって日本の近くにやってきます。特に、黒潮と親潮のぶつかる（②）側の港は水あげ量が多くなっています。

- |          |       |      |      |
|----------|-------|------|------|
| ア 日本海    | イ 太平洋 | ウ 寒流 | エ 暖流 |
| オ プランクトン | カ 水温  | キ 氷  | ク 種類 |

出題のねらい

○ 平成17・18年度に引き続いて「太平洋」を問う問題を出題した。日本近海は暖流と寒流がぶつかりあうため漁獲量が多く、特に黒潮と親潮のぶつかり合う「潮目」は世界有数の漁場となっていることを地図や統計資料を通して理解していることを求めている。地図帳を活用して、日本海、太平洋、黒潮（日本海流）、対馬海流、親潮（千島海流）、リマン海流等の位置（流れ）と名称については、この単元の部品となる知識として定着が必要である。

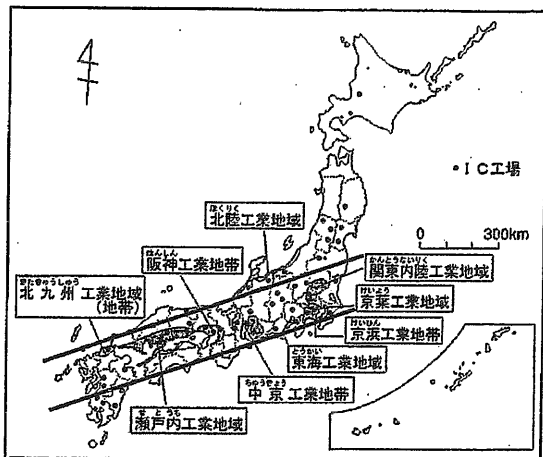
学習の重点

- 日本は水産業が盛んであることを、具体的事例を通して、自然的条件（海流、大陸棚、森林等との関係）や社会的条件（歴史や文化、漁法、船の発達、冷凍技術の進歩等）などから、多面的多角的に理解させることが求められる。
- 教科書に掲載されている具体的事例がどのような視点で構成されているかを把握し、部品となる知識同士をつないで習得させたい説明力のある知識へと授業を構造化することにより、事象間のつながりのある授業を展開させたい。また、地図帳を活用することにより、地理的空間認識が形成されることを児童に実感させることも大切である。
- プランクトンが潮目に多い理由を実験（温かい水と冷たい水の特徴など）を通して納得させたり、習得した社会的見方を使って他の事例を説明させたり、なぜ、太平洋側に水揚げ量の多い漁港が多いのか説明させたりするなどの授業の工夫の継続を図りたい。

【特に定着を図りたい問題 ②】

- 8 (1)① 太平洋ベルトのおおよその範囲を地図から読み取る問題  
 <H18:78.5% → H19:64.1%>

(資料1)「日本の工業のさかんな所」



なおみ

工業地帯や工業<sup>ちいせ</sup>地域は、関東地方南部から(①)の北部にかけての海ぞいにひろがっているね。

出題のねらい

- 昨年度はほぼ同じ問題文で「関東地方」を問う問題を出題した。次の問題(②)は、「太平洋ベルト」を問い通過率は高い(82.2%)ことから地図上の太平洋ベルトの位置関係の理解が十分でなかったことが原因であると推測できる。
- 地図資料が与えられ、太平洋ベルトや工業地帯等が示されていることから、位置関係や範囲の示し方について、丁寧な指導が求められる。

学習の重点

- 「太平洋ベルト」という基本的な用語について理解させる際に、用語を暗記させるのではなく、地図と関連させて地理的空間認識を形成させたり、工業地帯や工業地域が広がって「まるでベルトのようだ」というイメージを形成させたりする必要がある。
- 鹿児島県のある九州については、昔は「北九州工業地域ではなく北九州工業地帯」として日本の4大工業地帯の1つだった」ことなど、児童に身近に感じさせる手立ても考えられる。
- IC工場や内陸部の工業地域を扱う際には、県内の霧島市等の事例で説明するなど、地域素材の教材化も図りたい。
- 学習したことを使って、他の地域が説明できることを実感的に理解させることも有効である。